

実践は総合的な刺激の効果であると考えられる。

臨床実践の面からみると、総合的な刺激効果は、一針一穴ごとの刺激効果の全面的な反映である。そのため施術を行うときには、木を見て森を見ないのではなく、必ず全過程を考え、体を総合的にみて、一針一穴の刺激様式を重視しなければならない。針灸治療の作用機序とは、さまざまな要素が総合的に反映して具体化したものである。患者の身体状態・罹病期間・選穴・刺針手法および医師の技術レベルなどの要素である。それは、深く関わりあった高度で複雑な治療体系であり一致協調する連続した過程であるため、どこか1つの連携のなかで間違いが生じた場合、治療効果に影響が及ぶ。そのため効果が現れるということは、上述の諸要素を調整することである。治療するということは、絶えざる発展・絶えざる改善の認識過程なのである。

第6節 ● 適応症と注意事項

臨床実践の試練を経て、「微通法」は、内科・外科・婦人科・小児科・五官科〔耳・鼻・咽喉・口腔・眼の5科〕・皮膚科など多くの病症に広く用いられてきており、病気の種類はおよそ300種以上、そのうちで、治療効果が確実なものは約100種以上である。「微通法」は、麻痺・慢性皮膚病・婦人科疾患などの多くの慢性病に適用されるだけでなく、失神・高血圧状態・脳震盪・中風などの急性あるいは重篤な症状に対しても、救命効果がある。

「微通法」を施術するにあたって、責任感・技術に対する向上心・基本的な技術をしっかり訓練すること・刺針法の熟練が必須の条件になる。重要な腧穴や重要な臓器に近い部位に対しては、いかなる状況にあっても、けっしてうかつにならないように注意しなければならない。万一異常な事態が発生した場合、施術者は沈着・冷静になって、適切に処理しなければ

ならない。通常状況では、真剣に責任をもち、すぐに処理しさえすれば、重大な結果を招くことはない。

第7節 ● 典型的な症例の治験

1 脳血管障害

中医でいうところの「中風」である。突然意識を失って倒れ、人事不省に陥る、あるいは顔面神経麻痺・言語障害・半身不随を主症とする。

【病因病機】 本病の機序はたいへん複雑である。気血虧損によるものが多く、心・肝・腎の3経の陰陽失調と関係があり、風・火・痰の3者に属する疾患である。それに加えて、思い悩み・過労により、風陽顫動・心火暴盛・気血上逆となる、あるいは飲食の不節・脾虚痰熱・化火動風・蒙蔽清竅〔五官を塞がれる〕により、上実下虚・陰陽の連係を失うという重篤な証候が起こる。

【臨床症状】 臨床では、病位の深浅および病状の軽重によって、中経絡〔中風証候の1つで、一般に精神の異状がなく、顔面麻痺・痺れ・半身不随などの症状を現すもの〕と中臟腑〔中風証候の1つで、昏倒・意識不明・牙関緊急などの症状を現すもの〕に分けられる。病状の軽いものは、頭痛・頭がクラクラする・手足の痺れ・突発的な顔面神経麻痺・言語傷害〔構音障害〕がみられ、重篤な場合は、半身不随あるいは四肢や体のひきつり・痙攣などがあり、舌苔白膩・脈浮数となる。病変が深く臟腑に及んでいるものは、突然昏倒し意識不明となる・牙関緊急〔歯を食いしばり口が開かない〕・舌がこわばって構音障害が起こる・顔面は赤く呼吸が粗い・舌苔黄膩となる。さらに重篤な場合は、目を閉じて口を開ける・鼻呼吸は微弱・尿失禁・手足厥冷となる。これは暴脱〔ショックや虚脱〕の危機的証候であり、予後は悪い。

【治則】 熄風降逆・通経活絡・理氣行血

【取穴】 四神聡〔百会の前左右各1寸の4穴〕・合谷・太衝・太溪・聴宮など

【刺法】 毫針で聴穴に0.5～1寸の深さ刺入する。多くは瀉法を用いる。

症例1

李〇〇，男性，57歳。言葉がどもり，手足や体に力が入らなくなって10日になる。10日前，2階から降りるときに突然左半身が不随となり，言葉もはっきりしなくなり，顔面麻痺となって，2回嘔吐した。大小便の失禁はない。

望 診： 舌苔白膩で中心がやや厚黄

脈 象： 沈細

弁 証： 気虚・中風中絡

治 則： 化痰通絡

取 穴： 聴宮を主とし，列缺・条口を配穴する。

経 過： 5回の治療で，言葉ははっきりしてきて，精神状態も好転し，歩行も安定してきた。数回治療を行って治療効果を確かなものとした。

症例2

王〇〇，男性，53歳。左上肢が動かさなくなって2カ月になる。2カ月前，突然嘔吐し，下痢・頭痛・言葉が不明瞭などの症状が現れ，左上肢が動かなくなった。高血圧症の既往歴がある。

望 診： 舌体が左に偏向・舌苔白で中間が黄

脈 象： 沈弦

弁 証： 陰虚陽亢・肝風内動

治 則： 滋陰潜陽・平肝熄風

取 穴： 聴宮

経 過： 聴宮を取穴して10回治療した。最初の治療後，運動が前より軽くなったように感じた。3診目以後，痛みが取れ，5診目以後，

左手の浮腫が消退した。

症例3

高〇〇，女性，54歳。右手に力が入らず，動きが鈍くなって1年以上になる。1年前に中風を患い治療を受けたが，たびたび症状が現れ一向に改善しない。現在は右手に力が入らず，冷たく，腫れている。高血圧症の既往歴がある。

望 診： 舌質淡・舌苔白

脈 象： 弦細

弁 証： 陰虚陽亢・肝風内動・経脈失養

治 則： 滋陰潜陽・平肝熄風・通経活絡

取 穴： 列缺・太溪，のちに聴宮穴を加える。

経 過： はじめに列缺・太溪に刺針して一定の効果をえた。その後，聴宮穴を加えて，2回治療すると，効果ははっきりしてきた。右手の痺れと冷えは緩解し，腫れも退いた。

症例4

李〇〇，男性，35歳。高血圧症の罹病歴が数年になり，血圧は不安定で高いときもあれば低いときもある。昨夜，突然頭がクラクラしてめまいが起こり，ベッドに倒れ込んだ。その後すぐに言葉がうまく出なくなり，顔面神経麻痺が起こり，涎が流れて左半身不随となった。他院で「脳出血」と診断された。

望 診： 意識ははっきりしている・顔面は赤い・口角が右に引っぱられている・左眼が閉じられない・言葉がうまく出ない・左半身が動かさない・血圧220／120mmHg・舌苔黄燥

脈 象： 弦滑

弁 証： 陰虚陽亢・肝風内動

治 則： 滋陰潜陽・平肝熄風

取 穴： 四神聡・合谷・太衝・太溪

刺 法： 四神聡に点刺して出血させ，合谷・太衝に瀉法を用いる。太溪に

補法を施す。

経過：2診目で病勢は軽減し、左眼を動かすことができるようになり、脈も前日より緩和した。舌苔はまだ黄だが燥はすでになくなっていった。血圧が130 / 90mmHgに下降したので、曲池・陽陵泉・足三里・金津を加え、玉液に瀉血を行い環跳に点刺した。3診目で言葉が出にくいのもかなり好転し、話ができるようになったが発音はまだ不明瞭である。諸症状はいずれも好転したようである。取穴は、金津・玉液を止めて、頰車・地倉を加えた。4診目になると、歩行もできるようになり、患側の手でものを持つこともでき、言語機能も次第に回復してきた。脈は弦が少なくなり、舌苔は白になったがまだ厚膩である。前回と同じ取穴をした。5診目に症状は基本的に消失し、舌苔薄白・脈緩微滑。治療は前回と同じである。6診目には患側の上下肢の機能および言語はいずれも正常に回復し、舌苔薄白・血圧120 / 80mmHgであった。同じ取穴で治療効果を確実なものにした。

症例5

翁〇〇，女性，53歳。昨日，突然頭がクラクラしてめまいが起こり，口が右に引っぱられ，左側の手足と体が麻痺し動作が不自由になった。上肢の症状は下肢より重く，ものを握ることができない・腕を高く挙げられない・震えが止まらない・言葉がうまく出ない。

望診：顔面蒼白・口は右に引っぱられている・舌質紅・舌苔少・血圧180 / 120mmHg。

脈象：弦細

弁証：陰虚陽亢・肝風内動・中経絡

治則：滋陰潜陽・平肝熄風・疏通経絡

取穴：四神聡・曲池・合谷・陽陵泉・足三里・太衝・気海（灸）

経過：2診目で患側の四肢と体に回復がみられ，ものを握ることができるようになったが，力が入らない。精神的には良好だが四肢や体

の震えは依然としてある。頭がクラクラしてめまいがするのは好転したが，その他の症状や舌象に変化はない。処方合わないため，刺針後も変化がない。上述の取穴を加減して18回続けて治療を行ったところ，患側の四肢と体の運動機能は完全に正常に回復した。頭のふらつきや手足の震えも治り，気分もよくなり食事でも進み，血圧は140 / 95mmHgとなり諸症状は治癒した。

症例6

許〇〇，女児，13歳。3日前に突然左側の四肢と体が麻痺し，運動機能が失われ，顔面神経麻痺となり右に引っぱられている。ある医院の小児科の検査で「小児急性片麻痺」と診断された。患児はあまり食わず，頻尿である。

望診：舌苔白

脈象：細数

弁証：もともと体質が虚の状態であり，そのうえに風邪の侵襲を受けたため，経脈の流れが阻滞し，気血不暢により筋脈失養となった。

治則：祛除風邪・疏通経絡

取穴：頰車・曲池・合谷・環跳・足三里・絶骨

刺法：点刺法で一側に施術する。

経過：2診目で症状は明らかに緩解し，運動機能に回復がみられ，1人で歩行できるようになりものを持つこともできた。まだ頻尿があり，便はやや乾いている。脈細数・舌苔薄白。足三里を止めて，風市・陽陵泉を加えた。3診目で患側の上下肢は前回より力強くなり，屈伸運動も可能になり，食も進むようになり，頻尿も少なくなった。排便は1日1回，気分もよく，数脈も減り前回より有力になった。刺針の手法は変えなかった。

しばらくして父親がわざわざ礼を言いに来て，患児の運動機能は正常に回復し，顔面のゆがみも治り食事でも正常になり，学校にも行っているということであった。